

会 議 要 旨

会議名	令和6年度第1回館山市観光事業審議会
開催日	令和7年1月22日（火） 13：30～15：30
開催場所	館山商工会議所 2階 大ホール
出席者	館山市観光事業審議会委員 12名 館山市：市長、副市長、事務局（9名）
公開・非公開の別	<u>公開</u> 一部非公開 非公開
傍聴者	16名
会議概要・結果等	1. 開会 2. 市長あいさつ ・館山市長挨拶 （市長） 本日はご多用の中、本審議会にご出席いただきありがとうございます。 日頃から館山市政発展のためにご尽力いただいておりますこと、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。また、本審議会の委員の就任をご快諾いただきましてありがとうございます。館山市は、これまで、「観光人材の確保・育成・定着」、「持続可能な観光地づくり」等の課題解決に向けた検討を行ってきました。人口減少、少子高齢化が急速に進み、経済社会の影響が想定される中、館山市の観光の持続的な発展のため、様々な取り組みを広域かつ、中長期にわたり継続していく必要があると考えております。そのような中、千葉県では、昨年12月に熊谷知事が、県内1人1泊150円の定額制の宿泊税導入の方針を明らかにしたところです。これら千葉県の動向もふまえ、館山市でも観光事業に対する安定的な財源の確保が求められますので、「館山市観光事業審議会」を設置し、宿泊税の導入等について検討を行っていくことといたしました。日頃から様々な分野でご活躍されている委員の皆様とともに、活発なご審議をいただきながら宿泊税の導入等についての検討を進めて参りたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。 3. 委嘱状の交付 館山市から委員に対し、委嘱状を交付した。 4. 委員紹介 ・委員12名が自己紹介 5. 会長・副会長の選任について 委員の互選により、会長・副会長が選任された。 会 長：内山達也委員 副会長：上條長永委員 （内山会長）

審議会に参画するにあたりまして、館山市で長らく観光振興に取り組んでおられる皆様方とともにこれからの館山市の観光振興に寄与できるということ、非常に嬉しく思うとともに、大きな責任も感じております。この審議会では、近い将来だけではなく、10年先30年先の館山市の観光に関わってくるような、検討と同時に政策を確実に実行するための安定的財源の確保について検討することになると思います。ただしそれは最終的には地域社会の活性化に繋がるという結果が求められているのではないかと考えております。今回の審議会が館山市ひいては安房地域全体の観光振興に寄与する観光のあり方を検討する場になればと思っております。委員の皆様方のご意見を広く拝聴させていただき、副会長共々、会議の円滑な運営に努めてまいりたいと存じますので、ご意見ご協力のほどをお願い申し上げますとともに簡単ではございますがご挨拶に代えさせていただきます。

(上條副会長)

当審議会は、館山市の観光という側面を伸ばしていく重要な場だと思っております。館山市を多くの方に訪れていただき、交流人口を増やしていくことが重要だと考えております。会長をお助けしながら、進んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

6. 宿泊税に係る諮問

館山市から内山会長へ諮問を行った。(諮問書手交)

7. 議事

(1) 館山市の観光振興の現状

・資料1について事務局から説明

【質疑応答・意見】

(上條副会長)

観光客入込については、季節による増減が少なく、年間を通じて平準化することが望ましい。スポーツイベントや初詣は観光なのかという疑問も含め、観光入込客数がどこまで正しい数字なのかを知るため、動態調査を行うことが必要ではないか。

(事務局)

過去に定住自立圏構想事業で動態調査とGAP調査を行った。観光消費額調査はまだ未実施だが、データに基づいた戦略策定のため、今後も調査を進めていく。

(諏訪委員)

インバウンドについて、館山市は半島の先であるため、成田空港からのアクセスが課題だと感じている。交通アクセスの取り組みなどは実施しているか。

(事務局)

成田空港内の観光案内所に繁体字・英字のパンフレットを配架し、その中にアクセス情報を掲載している。今後も効果的なPRを検討していきたい。また、外国人の入込客数については、昨年度は1,911名、令和元年度の2,168名となっ

ている。実際に外国人がどのルートでどこから来ているのかという傾向は追いきれていないが、海越しに見える富士山や市内の歴史資源が、外国人にとって魅力的なコンテンツであると感じており、今後はそういったデータの取得も検討している。

(小金委員)

インバウンド協議会で様々な施策を行っているが、中々成果が上がっていないのが現状。長年の課題でもある交通アクセスについても、成田空港からのライドシェアなど、エージェントを通じて改善しようとしているが、中々改善しない。データの取得を行うのであれば、データに基づいた戦略を策定する専門機関やリーダーになる組織が必要ではないか。様々な組織を一本化し、横のつながりを重要視した強いリーダーシップがあれば、現状の課題は解決すると思う。

(鈴木委員)

宿の経営をしている中で、大体の傾向がわかってきた。いきなり平日の数字が上がることは無く、年間のお客様の数もほとんど決まっている。宿側としては、リピートを上げる努力が必要だが、国内旅行者をこれ以上に取り込むには限界があると感じている。目標（観光入込 230 万人、宿泊客数 50 万人）を達成するには、インバウンドを取り込むしかない。安房地域でも、鋸山までは外国人が良く来ているので、インバウンドを進めていくのであれば、今後はいかにうまくメディアを使って、多くの外国人に届けるかが最重要課題だと思う。

(事務局)

訪日外国人の観光地に対する探求心は理解している。SNS で興味のある観光地があれば、距離が遠くても実際に訪れるというフットワークには確かなものがある。SNS での発信については、市の SNS・観光協会の SNS で発信を行っている。フォロワー数も徐々に伸びてきているので、今後も定期的に投稿を行う。

(小宮委員)

まずは、正しいターゲティングをして、どのような方に来てもらいたいかを検討していくことが必要だと思う。プロモーションの部分に関しても他地域に負けないような企画を考えていきたい。

(石井委員)

館山の海・里山をどう磨いていくか、いかに具体的に実行できるかが必要だと思う。グリーンファームも含め、館山の魅力的な素材のブランド化を進めていくこと、元々ないものを作るよりも、既にこの地域にあるものが大事だと感じている。インバウンドに関しては、受入れ整備が重要。いかに外国人の方にわかりやすい PR ができるか、来たときにもわかりやすく滞在してもらえるかを意識したい。観光人材の育成に力を入れ、専門的な知識や能力を持った人・組織がいないと進まないと思う。また、安房地域で一体となって進んでいくことも必要と感じている。

(事務局)

安房 4 市町では、宿泊税導入の検討を始めるにあたり、足並みを揃えようとしている。今後も情報共有を含め、連携したいと考えている。

(安田邦春委員)

外貨を稼ぐのが館山市の 1 番のテーマだと感じている。自分が商売している中では、夏のよりも春の方が、売り上げがあるように感じる。また、海はビジネス的にまだ誰も手をつけてないかもしれない領域。そういった場所に対して、様々なデータを収集した具体的な戦略を基に、市内の人たちが行動することで初めて、市内の経済が活性化すると思う。

(山田委員)

国内旅行者は土日に集中しており、平日の集客が課題になっている。対して、インバウンドは平日休日関係なく集客できるので重要だと思う。

(事務局)

市としても平日の入込が課題だと感じているが、現状、施策等に行っていない。今後、具体的な対策を検討していきたい。

(酒井委員)

入湯税 150 円に加え、千葉県宿泊税 150 円となるとお客様の負担になるのではないかと危惧している。また、宿泊税がどのように使われているのか、疑問に感じるお客様も一定数いると思う。インバウンドについては、待っていても来ないので、こちらからアプローチすることが必要。

(安田信之委員)

海辺の事業に関しては、様々な動きがあると聞いている。こういった会では、会議中は議論が盛り上がるが、終わると熱が冷めてしまうことがあるので、継続して検討を重ねていきたい。経済を活性化するためには、専門的かつ継続するような組織を作っていくといけない。小さいことでも継続していけば必ず目標を達成できると思う。

(児玉委員)

観光協会や市でやっている事業や取得したデータを多くの方々に伝えていくことが必要だと感じた。地域の方々、事業者の方々に理解をしてもらった上で色々な施策を実施していかないといけない。市内の宿泊単価は全国の平均値に並ぶようになってきたので、今後は地域内消費をいかに上げていくかが重要になる。

(2) 観光事業者向けのアンケート

・資料 2 について事務局から説明

【質疑応答・意見】

(鈴木委員)

宿泊税の議論が全国各地で進み、導入も随時行われる中で、館山市だけが遅れることは、次の世代のためにもならない。入湯税が年間 3,000 万から 4,000 万で推移している中で、温泉事業組合としてやっと現状維持が出来るレベルな

ので、宿泊税に置き換えると、同額、もしくはさらに積み上げをしていかないと、十分とは言えないのではないか。

(石井委員)

千葉県の150円に市で独自の上乗せをすることについて、宿泊事業者の方々は実施に対してどう思っているのか聞きたい。

(諏訪委員)

導入にあたって、事務作業の煩雑さがネックになっていると思うが、市で独自の上乗せをした場合、県税を含めて県で一本化をして、なるべく事業者の負担が無い形で徴収すると聞いている。

(酒井委員)

最終的に安房3市1町で意見が分かれた場合にどうなっていくか懸念している。

(山田委員)

宿泊税に導入にあたり、使途をしっかりとってもらいたい。実際に宿泊税を負担するのはお客様なので、誤解が無く説明ができるように、何に使うのかを具体的に示して欲しい。そういった情報が冊子などにまとまっているとわかりやすいと思う。

(諏訪委員)

入湯税と宿泊税を両方徴収している地域において、お客様のクレームが増えた等の事例は確認しているか。

(事務局)

調査中であるが、現状ではそういった事例はないと聞いている。

(小金委員)

宿泊単価の違いがある中で、その配慮をどうするか検討すべき。宿泊税をどのように使うかを決めた後、上乗せの金額を決めていく方がいいのではないかと。安房3市1町で足並みを揃えることも大事だが、お金が無いと経済は回らないことは確か。

(3) 観光振興施策の検討

・資料3について事務局から説明

【質疑応答・意見】

(児玉委員)

千葉県の会議にも参加された内山会長にどういった経緯で話が進んできたかを教えていただきたい。

(内山会長)

千葉県では、今後の観光振興を進めていくため、インバウンドやDMOに充てる財源が必要ではないかという議題で話し合いが始まった。人口減少により観

光に充てる財源が減少していく中で、地域の活性化を行っていくには、観光に特化した財源として宿泊税という形で観光客から一部負担をいただき、それを還元していく方向性で進んできた。免税点や課税免除対象についても様々な意見が出たが、1番のポイントとして事業者の方々にできる限り負担が少ない形にすることとした。世界的には、定額ではなく、税率で宿泊税を徴収している地域が多いが、日本ではほとんど採用されていない。

千葉県としても事業者の負担を考え、定額の方が取り組みやすいとした。150円という数字に関しては、現状実施すべき観光振興施策に必要な予算として、算出した金額になっている。

(石井委員)

スケジュール的に時間がない中でも、しっかり勉強して、議論をしていかなくてはいけない。大事なことは、宿泊税をどのような目的で使うのか、それをいかに多くの方々に理解いただくかだと思う。持続的に観光振興を行うのであれば、やはりDMOという存在は必要になってくると思う。

(事務局)

これまで行政・観光協会・商工会議所で連携をし、様々な事業を行ってきた中で、今後はDMOのような組織がリーダーになっていかないとこれ以上、前には進むことができないと考えている。ただ、行政が旗を振っていても実現は難しいので、事業者の方々のご協力をいただいて、実現可能であればDMOを作って前進させていきたい。次回以降の会議では、DMOを1つのポイントにしてご審議をいただけるとありがたい。

(児玉委員)

各団体の代表の方が審議会に参加している中で、自身が長を務める団体の方々にもしっかりと説明が出来る資料等を今後、準備したい。地域としてこうありたいという理想像を持った上で、何をすればいいのか、いくら財源が必要なのかを考えていければと思う。

(内山会長)

館山は観光地であるという共通認識のもと、こういった方向性を打ち出して、その財源が必要であるから宿泊税を館山市独自で上乗せをして取りましょうというのが基本的な流れになる。その中で事業者の方々への説明やお客様にもわかりやすい案内が今後、必要になってくると思う。スケジュールが非常にタイトな中で、館山市の10年、30年先を見据えた観光振興のあり方、ビジョンを皆様のお力をお借りしながら考えていきたい。

(4) その他

・なし。

8. 閉会